

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370501088		
法人名	(有) 清和会		
事業所名	グループホーム城やしき(1F)		
所在地	名古屋市市中村区城屋敷町1-3		
自己評価作成日	平成27年1月17日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370501088-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370501088-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の人格を尊重し、個別の介護計画の下、日々自宅で生活していると思わせるような和気あいあいとした、穏やかな雰囲気の中での介護。春夏秋冬を肌で感じる事の出来るような月々の行事を重んじている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、利用者一人を大切にしながら、職員が日常的に利用者への気持ちを意識するように、「気配り、目配り、心配り」を目標に掲げ、職員が日常的な振り返りに取り組んでいる。日常的な支援の中では、定期的に行事食の企画を立てており、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。ホームの運営母体が精神科の医療機関でもあるため、通常の内科医の訪問診療の他にも、精神科医による精神面での支援も行われており、利用者がホームで落ち着いた生活ができる取り組みが行われている。また、職員体制についても、職員へのサポートが行えるように、管理者の他にも管理業務を行う職員の配置が行われており、職員や家族の急病等の際にも、ホームとして柔軟に対応することができる職員配置が行われており、職員が働きやすい環境整備が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	完璧とは言えないが、常に、その人にとってのベストを考えて話し合いをしている。	理念は、その人らしさを大切にしながら、利用者が安心してホームで生活することができる支援を目指した内容となっている。理念に基づいた目標を事務室に掲示しており、職員の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での話し合いで、地域の行事等、色々参加している。	ホームは町内会に入り、回覧板にて地域の情報を得ており、地域の方との交流に取り組んでいる。秋祭りの際には、子ども御輿がホームを訪問している他にも、幼稚園との交流の機会も得られている。	以前は参加できていた地域の行事への参加ができないことがある。ホームと地域の方との交流が深まるように、地域の行事にも参加できるように、職員間の検討等に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、民生委員さん等の認知症に関しての相談に応じている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、お便りを見せて現状報告をしている。色々な意見、アドバイスを受けて 今後に生かしている。	会議には、福祉の専門職者や医師の出席も得られ、専門職としての意見等が得られ、運営への反映につなげている。また、地域の方の出席も得られているため、地域の方との情報交換等にもつながっている。	現状、家族へは案内は行っているが、出席が少ない。今後も継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導は出席している。 事業所での指導、アドバイス等を徹底している。	ホームには生活保護を利用している方が生活していることもあり、区の担当者との情報交換等が行われている。また、市の講習会等の際には、職員も参加するよう取り組んでおり、情報交換等につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは実施している。 玄関の施錠はしなければならないと思っている。	ホームは身体拘束を行わない方針である。玄関には施錠を行っているが、利用者の様子を見て一緒に外に出るなどの対応が行われている。また、気になった際には、管理者からの注意喚起等が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	其々スタッフが利用者をよく観察、把握する事で虐待の無い介護を実施している。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者等、一部の職員は学び活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、利用者 家族には不便の無い様に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けていないが、来設の際、常に意見、相談をその都度、対応している。	ホームでは、食事会等の行事を通じた家族との交流が行われており、意見交換等につなげている。玄関には意見箱を設置しており、意見等の把握に取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各フロア毎のミーティング、その他、個々のスタッフとの会話で、意見要望を聞く様にしている。	職員会議の機会がつけられての現場の職員からの意見等は、管理者を通じて、法人に伝えられている。日常的にも申し送りを通じた意見交換等が行われている。また、管理者による随時の面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内掲示、資格取得にむけてのアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中村区内でのネットワーク作りに参加し、協力しているが、完璧ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの、環境、趣味、嗜好等、出来るだけ要望を聞いて、不安の無い生活をしていただけるようコミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、不安の内容を聞き、出来るだけ安心して頂ける様対処する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に説明しているが、その他のサービスは、出来る事は個々に対応している。 (買い物、散歩、喫茶)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設のアピールする、自宅で生活しているような和気あいあいとした雰囲気での介護を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時に、色々な意見交換をし、本人にとってより良い状態であるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物(使用していた物、家具等)を居室に置いていただいている。 関係者には自由に来訪していただいている。	利用者の入居前からの友人、知人がホームに訪問する機会があり、馴染みの方との交流を継続している方がいる。生活保護の方が多い現状があるが、家族と食事や買い物等の外出の機会が得られている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	うまく関わる事が出来ない人にはスタッフが仲に入り、楽しくコミュニケーションとれる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ配慮している。 (電話したい・家族に来院してほしい・買い物等)	利用者に関する情報を職員全員での把握に取り組んでおり、日常的な申し送りの時間にも話されている。また、毎月のカンファレンスの時間もつられており、利用者に関する気付き等を職員間での共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の情報を掛り付け医、サマリー等で得、スタッフ全員が理解の上、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの性格、心身状態を把握しその人に合ったやり方を、ミーティングで話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の為の話し合いは、その都度行っている。	介護計画は、基本6か月毎に見直されており、職員は、日常的にケアプランチェック表への記入等を通じて、変化等の把握に取り組んでいる。日常的なチェックを通じて、3か月毎のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は施設設立以来記入している。常に、スタッフ間での情報の共有は、朝夕の申し送り時においても、行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のニーズを把握し、柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館、飲食店、神社、ショッピング等 其の他色々なボランティアさんを利用		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	オーナーが精神科の医師で週1回、往診医は月に3回の往診がある。何かあれば、その都度医師と連絡取れる状態である。	内科医の訪問診療により健康面の管理が行われているが、運営法人の代表者が精神科医でもあるため、専門的な支援も行われている。また、ホーム内に医療機具が設置されており、利用者の支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はおいてない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医を通じて、いくつかの病院を紹介してもらい早期に治療、入院、退院できる環境である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族からの要望があれば、往診医の協力を得、できりだけ応じるようにしている。	ホームでは、利用者の看取りを見据えた支援は行われていないが、重度の方への支援も行われている。家族とは、ホームで出来ることと出来ないことの確認を行いながら、次の生活場所への支援も行われている。	ホームには生活保護の利用者等、家族、親族との関係が疎遠の方が生活している現状を踏まえ、終末期の対応を含めた、ホームでの対応についての継続した検討等に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。 地域の災害訓練に参加。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われている。地域の訓練の際にはホームからも参加しており、情報交換等につなげている。また、ホーム内に備蓄品の確保も行われている。	地域の方との相互の交流について、継続した取り組みに期待したい。また、水害のリスクに備え、ホーム内での検討を重ねながら、ホームの備蓄品の保管場所の確保に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できるだけ、配慮している。	職員による言葉遣い等の対応については、常識の範囲で支援が行えるように、管理者からの注意喚起等も行われている。また、内部研修の機会もつくられており、職員の振り返りの機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る人にはそのような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	まずは清潔を心がけて支援している。 希望者には、マニキュア等して、楽しんでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人は実施。	食材業者のメニューに基づきアレンジも加えながら、職員による調理が行われている。利用者もできることに参加し、職員も一緒に食事を行っている。また、様々な行事食が行われており、利用者の楽しみにもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、カロリーを考えた献立内容である。 10時、3時には、おやつと水分摂取を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、口腔ケアを実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、リハパン等は使用せず、排泄時間を考えて自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表への記録を残しながら、職員間で排泄状況等を共有し、日中の時間は、トイレでの排泄ができるように支援している。また、日常的に運動の機会を取り入れ、適切な排泄につながる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便日を確認し、その人に応じた予防を心がけている。 水分摂取や、繊維質の多い野菜を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日にちは決めるが、時間等は実施。	浴槽の大きさがユニット毎に異なっており、1階のユニットの浴槽は、好きな方同士での入浴も可能な大きな浴槽が備えられている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の快い運動、散歩レクリエーション等、楽しく安心して頂ける様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬においては、スタッフ全員が注意し、必ず飲んで頂ける様に見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除、台所仕事、洗濯もの、買い物時にはカラオケ等楽しんで、気分転換出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見、秋の紅葉、ドライブ、買い物など行ける範囲内の支援をしている。	ホームでは、天候等もみながら日常的に外出できる機会をつくっており、散歩や買い物等の外出等も行われている。また、季節に合わせた花見や公園等の外出行事の他にも、外食等の楽しみも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力のある人は所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る人は、何時でも実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも心地よく過ごして頂ける様心がけている。 季節の移り変わりを感じて頂ける様な行事を欠かさないようにしている。 タペストリー等、壁飾りなどでも工夫している。	ホーム内はゆったりとした空間が確保されており、利用者が日常的にくつろぐことができるソファ等も置かれてある。また、リビングには季節に合わせた飾り付けが行われており、行事の際の写真や利用者の作品も掲示されてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	キッチン、ダイニング、リビングとバリアフリーの大広間になっているが、其々一人で過ごせたり複数で楽しめたり、自由に生活出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まず、入所の際、今までの使い慣れた物や、好みの物を持参して頂いている。その後も、本人の意思で自由にして頂いている。	居室にはベッドと収納スペースが備えられてあり、利用者の使い慣れた家具類の持ち込みも行われている。また、家族の写真を飾ったり、趣味の物等を持ち込んでいる方もおり、一人ひとりに合わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の出来る事は、毎日継続して貰っている。(掃除、食事の後片付け、食器拭き、洗濯物)		